

大学等の復興知を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業

「事業名：“オール近大”川俣町復興支援プロジェクト」2019年度補助事業の実績・成果

近畿大学 連携市町村：川俣町

連携市町村との協定締結日：平成29年5月16日 現地拠点：伊達郡川俣町役場西分庁舎

事業のポイント

「マイナスからゼロへ」という被災からの再生支援と「ゼロからプラスへ」という復興支援の2本の柱を基本とし、川俣町民の意見を取り入れつつ、学生の知を組織的に活用した復興支援を実行し、一つの復興モデルを構築する。

今年度の活動実績

除染研究・心身ケア

川俣町の放射線・放射能調査（野生キノコの採取）、モニタリングポストの適正配置検討のためのポスト周辺での線量率測定

川俣町復興支援プロジェクト（農業振興・特産品開発）

- ・川俣町関係者（役場、農業振興公社、食品企業等）との共同での商品開発（川俣シャモすき焼きセット、アンスリウムクッキー、ブルーベリージェラート等）や川俣シャモレシピコンテストの開催、川俣シャモまつりへの出店等を行った。
- ・かわまたアンスリウムPRイベント「アンスリウム×近大アート展」、「かわまたアンスリウム展」の開催

川俣町復興支援プロジェクト（集落復興）

- ・川俣町の地域資源等の調査を行い、地域復興のための提案施策である「準市民制度」の検証を行った。また、成果の一つとして作成する川俣町の紹介動画用の撮影を行った。
- ・サイクルツーリズムを誘致すべく、ヒアリングを行い、観光資源のマッピングと検証、それらをつなぐコースを実走。拠点となる施設の選定・交渉を行い、サイクル基地としての整備と付加価値としての体験アクティビティによる魅力アップを提案し、持ち帰って広報用にポスターとホームページを作成して広報発信の準備を行った。

今年度の成果

除染研究・心身ケア

学生が自ら、川俣町での放射線・放射能の現地調査を行うことによって、現状についての関心を持つようになった。野生キノコを経年的に採取し、その放射性セシウム濃度を測定することによって、山林の汚染状況を把握することができた。また、この事業をリスクコミュニケーション実践の機会と位置付けて、フィールドワークの事前学習として「原子力を専門とする学生」が「専門としない学生」に対して放射線の基礎について説明を行い、理解をすすめた。

川俣町産業振興プロジェクト（農業振興・特産品開発）

- ・「川俣シャモすき焼きセット」は2019年11月から販売を開始した。アンスリウムクッキーは2019年度内の販売開始を目指している。また、学生考案の川俣シャモのレシピ集を作成し、道の駅川俣シルクピアで展示を行っている。あわせて、川俣シャモまつりへの出店等を通じて、川俣町関係者との交流を深めた。
- ・「アンスリウム×近大アート展」は約1,000名、「かわまたアンスリウム展」は約500名の来場があり、様々なメディアによる幅広いPRができた。

川俣町産業振興プロジェクト（集落復興）

- ・川俣町において、現地の様々な復興施設における地域復興や観光資源の検証のための現地調査を行い、被災地の中山間地域における集落復興を支援する事業企画案である「準市民制度」の検証を行った。また、成果物として、現地の地域資源や地域の様子を広く広報し、同町の認知度向上に向けたPR動画を作成した。
- ・「おじまふるさと交流館」をサイクルツーリズムの拠点として整備することに合意し、レンタル用の自転車を配置するとともに農業体験、バーベキューなどのアクティビティを活性化した。初級から上級まで5つのサイクリングコースを設定し、パンフレットやHP案も完成し準備完了と思われたが、台風19号の被害のため、サイクリングコースの再調査が必要となったまま冬になったので、開始は来年度へ延期した。



フィールドワークにて



川俣シャモまつり



シャモすき焼きセット



かわまたアンスリウム × 近大アート展



かわまたアンスリウム展



現地調査にて



サイクリングコース実走